

# インフラ・ザ・ジャパンの運用状況

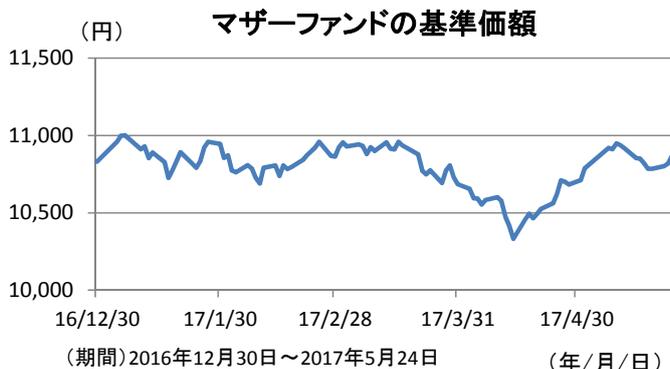
インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)/(米ドル投資型)/(豪ドル投資型)  
追加型投信/国内/資産複合

2017年5月31日

**当ファンドの2017年に入ってから基準価額の騰落要因等についてご報告致します。最近の基準価額の推移や市場環境のご理解の一助にいただけましたら幸いです。**

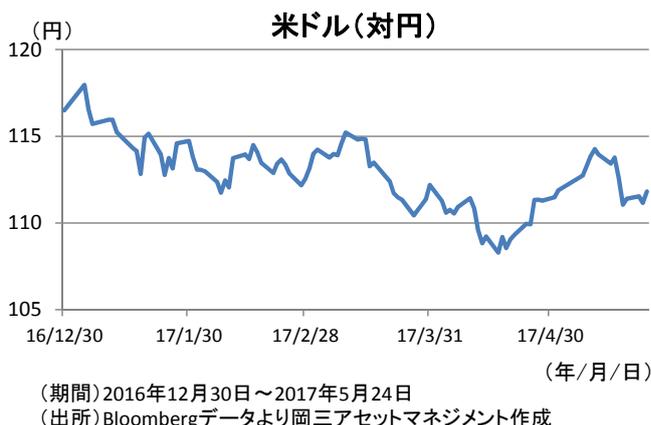
## 【マザーファンドの基準価額】

ベビーファンドが組入れているインフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、マザーファンド）の基準価額は、昨年末（2016年12月30日）の10,831円から2017年5月24日には10,865円へと34円上昇しました。同期間、東証REIT指数（配当込み）は-4.7%と下落したものの、東証株価指数（配当込み）が+4.7%と上昇したことや、組み入れているトレンドマイクロや前田建設工業などの株価上昇がプラスに寄与しました。



## 【米ドル】

米ドルは、昨年末の116円台半ばから5月24日には111円台後半へと約5円の円高となり、米ドル投資型の基準価額にはマイナスに寄与しました。円高進行の背景には、米トランプ大統領の主要政策に対する市場参加者の期待の低下や米国の長期金利の低下に加え、北朝鮮を巡る地政学的リスクの増大などにより、安全資産と考えられている円に資金がシフトしたことが挙げられます。4月中旬以降は、地政学的リスクの低下などにより、米ドルは対円でやや反発しています。



## 【豪ドル】

豪ドルは、昨年末の84円台前半から2月中旬に一時約88円まで上昇する局面もありましたが、5月24日には83円台前半へと年初比で約1円の円高となり、豪ドル投資型の基準価額にはマイナスに寄与しました。豪州経済に大きな影響を与える国際資源価格（石油や石炭など）が2月中旬まで強含んだことは豪ドルにとって追い風となりましたが、その後国際資源価格が下落したことなどにより、豪ドルは下落しました。しかし5月中旬以降、それらの価格の反発に合わせ豪ドルも対円でやや強含んでいます。



### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（円投資型）/（米ドル投資型）/（豪ドル投資型）」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



各投資型(ベビーファンド)の基準価額と今後の運用方針

【円投資型の基準価額】

円投資型の基準価額は2016年12月30日の10976円から、2017年5月24日には10908円と68円の下落となりました(分配金再投資ベース)。この間のマザーファンドの基準価額の騰落要因の他、信託報酬やその他要因が影響しました。

【米ドル投資型の基準価額】

米ドル投資型の基準価額は2016年12月30日の9208円から、2017年5月24日には8827円と381円の下落となりました(分配金再投資ベース)。この間のマザーファンドの基準価額の騰落要因の他、米ドルが対円で下落したことや、信託報酬の影響が主因です。

【豪ドル投資型の基準価額】

豪ドル投資型の基準価額は2016年12月30日の8435円から、2017年5月24日には8354円と81円の下落となりました(分配金再投資ベース)。この間のマザーファンドの基準価額の騰落要因の他、豪ドルが対円で下落したことや、信託報酬の影響が主因です。

円投資型の分配金再投資基準価額



米ドル投資型の分配金再投資基準価額



豪ドル投資型の分配金再投資基準価額



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.566%(税抜1.45%)の信託報酬控除後です。※分配金再投資基準価額は、2016年12月30日以降の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

【今後の運用方針】

- 各ベビーファンドの運用は、マザーファンドを通じて行ってまいります。マザーファンドの運用につきましては、資産配分と銘柄選別について株式会社りそな銀行の投資助言を参考に、マクロ経済・銘柄分析、株式およびJ-REITの流動性などを総合的に判断して、運用を行う方針です。
- 資産配分に関しては、株式の組入比率をJ-REIT比でやや高めとして運用を行う方針です。株式に関しては、3月決算企業の決算が出そろったことから、各社の決算内容を精査し、運用を行う方針です。J-REITについては引き続き賃料収入の安定度や配当利回りなどを重視して運用を行う方針です。
- 米ドル投資型および豪ドル投資型については、円売り米ドル買いおよび円売り豪ドル買いの外国為替予約取引が純資産総額比で引き続き高位となるように調整してまいります。
- このような方針の下、引き続きファンドのパフォーマンス向上を目指して運用を行ってまいります。

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)/(米ドル投資型)/(豪ドル投資型)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

**インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)/(米ドル投資型)/(豪ドル投資型)  
追加型投信/国内/資産複合**
**運用状況**

-2017年5月24日現在-

- ※「円投資型」、「米ドル投資型」、「豪ドル投資型」のファンドがあります。  
 「米ドル投資型」は米ドル、「豪ドル投資型」は豪ドルへの投資成果を享受することを目指します。  
 ※3つのファンド間でスイッチングが可能です。  
 ※インフラ関連好配当資産マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。

**基準価額、組入比率等の概要**

	基準価額 (1万口あたり) (円)	2014/11/28以降の 税引き前分配金 累計額(円)	2014/11/28からの 基準価額の騰落率(%) (税引き前分配金再投資後)	純資産総額 (百万円)	マザーファンド 組入比率(%)	為替 予約比率 (%)
円投資型	10,707	1,160	1.4	12,456	97.2	-
米ドル投資型	8,678	740	-5.7	31,472	96.8	97.1
豪ドル投資型	8,304	240	-14.4	7,636	96.7	96.4

**インフラ関連好配当資産マザーファンド**

	組入比率(%)
株式※1	49.8%
J-REIT	48.0%
短期金融商品・その他	2.2%
合計※2	100.0%

※1 株式にはインフラ投資法人を含みます。

※2 合計は四捨五入の関係で上記の合計値と一致しないことがあります。

**株式組入上位10銘柄**

順位	銘柄名 銘柄コメント	組入比率 (%)	予想配当 利回り(%)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ 世界的に金融インフラを提供	3.8	2.6
2	いすゞ自動車 特に小型商用車が得意な物流インフラ事業	3.6	2.3
3	オリックス リース等の金融インフラ事業	3.5	3.2
4	プリヂェストン タイヤ販売国内首位、トラック向けタイヤ供給	3.0	2.9
5	三菱商事 資源・エネルギーインフラ事業	2.7	3.5
6	SBIホールディングス ITを活用した金融インフラ事業	2.7	3.8
7	トレンドマイクロ ITを守る情報・通信インフラ事業	2.7	2.6
8	伊藤忠商事 資源・エネルギーインフラ事業	2.5	4.0
9	前田建設工業 公共施設建設にも積極的なインフラ建設	2.4	1.2
10	エヌ・ティ・ティ・データ 官公庁・金融機関向けシステム開発に強い	2.2	1.3

**J-REIT組入上位10銘柄**

順位	銘柄名 銘柄コメント	組入比率 (%)	予想配当 利回り(%)
1	日本リートファンド投資法人 日本初の商業施設特化型REIT。商業型	2.8	4.1
2	GLP投資法人 日本最大級の資産規模を誇る物流型	2.7	3.9
3	イオンリート投資法人 イオングループ商業施設等に投資する商業型	2.3	4.9
4	大和ハウスリート投資法人 物流及び住宅等に投資する総合型	2.1	3.5
5	アドバンスレジデンス投資法人 最大級の資産規模を誇る住宅型	2.0	3.4
6	平和不動産リート投資法人 東京都都区部を中心に投資する総合型	1.9	4.6
7	ユナイテッド・アーバン投資法人 用途・地域を分散させた総合型	1.9	3.9
8	いちごオフィスリート投資法人 オフィスを中心に投資する総合型	1.9	5.9
9	ケネディクス・レジデンシャル投資法人 東京圏などの賃貸住宅に投資する住宅型	1.9	4.5
10	ジャパン・ホテルリート投資法人 ホテルに特化して投資するホテル型	1.8	4.5

※組入比率は、マザーファンドの純資産総額に対する比率です

(作成：エクイティ運用部)

**<本資料についてご留意いただきたい事項>**

■本資料は、「インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)/(米ドル投資型)/(豪ドル投資型)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)/(米ドル投資型)/(豪ドル投資型)  
追加型投信/国内/資産複合

インフラ・ザ・ジャパン (円投資型) / (米ドル投資型) / (豪ドル投資型) に関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内の株式や不動産投資信託証券等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、「米ドル投資型」、「豪ドル投資型」は、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの基準価額の主な変動要因としては、「株価変動リスク」、「不動産投資信託証券のリスク（価格変動リスク、分配金（配当金）減少リスク）」、「為替変動リスク」、「信用リスク」等があります。  
※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが見込まれる場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時  
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.24%（税抜3.0%）
- 換金時 換金手数料：ありません。  
信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.566%（税抜1.45%）
- その他費用・手数料 監査費用：純資産総額×年率0.0108%（税抜0.01%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。（※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- 運用管理費用（信託報酬）、監査費用は毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料（監査費用を除きます。）はその都度、投資信託財産から支払われます。
- ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。なお、上場不動産投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場不動産投資信託の費用は表示していません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

### 販売会社について

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
今村証券株式会社	北陸財務局長(金商)第3号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社しん証券さかもと	北陸財務局長(金商)第5号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○		○	
<b>(登録金融機関)</b>					
株式会社近畿大阪銀行	近畿財務局長(登金)第7号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	関東財務局長(登金)第593号	○		○	
株式会社りそな銀行	近畿財務局長(登金)第3号	○		○	

#### <本資料に関するお問い合わせ先>

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部  
フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)